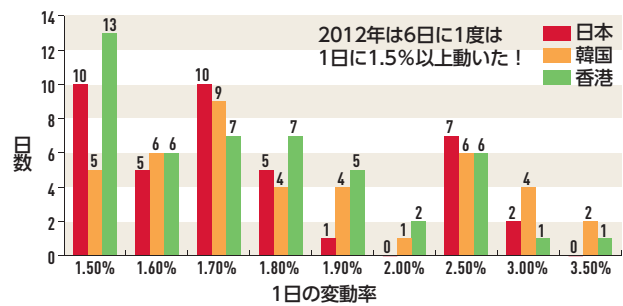


成長期待が高まる アジア市場に注目!!

Point 1 値動きが大きい ハイリスク・ハイリターン!



香港のインデックスは2012年、247営業日のうち48日が1.5%以上動いた。信用取引を組み合わせれば、さらに大きな動きが狙える!

Point 2 日本株と同様の 時間帯で取引できる!

アジア各国の株式市場の取引時間													
市場	日本との時差	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
オーストラリア	+1			8:00-14:00 (夏)									
日本	0				9:00-15:00 (冬)								
韓国	0				9:00-15:00								
シンガポール	-1					10:00-18:00							
マレーシア	-1				10:00-13:30				15:30-18:00				
台湾	-1				10:00-14:30								
フィリピン	-1				10:30-13:00			14:30-16:30					
中国	-1				10:30-12:30			14:00-16:00					
香港	-1				10:30-13:00			14:00-17:00					
インドネシア	-2				11:00-14:00				15:30-18:00				
タイ	-2				11:00-13:30 (金)				16:00-18:00 (金)				
インド	-3.5					12:00-14:30				16:30-18:30			

距離的に近いアジア市場は、日本株とほぼ同じ取引時間。ETN/JDRを活用すれば、リアルに値動きを見ながら、日本株と同じ感覚で取引できる。

え、資産形成のベースとなる世界分散投資をよりアクティブに実現する選択肢を模索してきました」
こうして2月、満を持して「NEXT FUNDS」に次ぐ、新ブランド「NEXT NOT ES」が誕生。ETN/JDRのリリースに至ったという。

日本の市場に居ながらアジア株のダイナミズムを享受できる!!

同グループでは今後の経済成長への期待が高まるアジア市場に注目し、2月18日に香港ハン

セン指数や韓国200種株価指数(KOSPI200)などをベースとして作られたブル/ベア型指数への連動を目指すETN/JDRを上場した。左グラフからもわかるように、アジア市場は相対的に値動きが大きい。しかも同ETN/JDRは信用取引(買いのみ)の対象で、株式と同様に指値も可能。相場状況に合わせて柔軟に投資手法を選択でき、売買機会の拡大が期待できる。

また、東証の上場商品で、国内発行の有価証券であるため、外国株のように専用口座は必要

なく、為替決済を気にせずにするのはうれしい。

さらに、「時差がほとんどないため、日本株と同じ感覚で、中の値動きを見ながら機動的に売買できるのもメリットです」と清水さん。

今後は、アジア市場に加え、コモディティ(商品)を対象にしたものなど、幅広い展開も検討しているという。資産形成の選択肢を広げてくれる新たな商品ラインナップも期待大だ。

*「ボラティリティ・インデックス(Volatility Index)」の略称で、アメリカのCBOE(シカゴ・オプション取引所)が、S&P500を対象とするオプション取引の値動きを元に算出・公表している指数。

野村グループの ETN/JDRで狙え!! 収益チャンスUPを

攻めの世界分散投資を実現する
新たな一手が登場!



野村證券 ストラクチャード・プロダクト部
NEXT NOTES マーケティング・ヘッド
清水久未さん

お話を伺ったのは...

昨年末からの相場の潮目の変化を受け、「売買チャンスを増やしつつ、世界分散投資でガッチリ資産形成をしたい」——そう考えるなら、野村グループのETN/JDRに注目! 投資の選択肢がグッと広がるこの新商品について、野村證券の清水久未さんに伺った。

ETFで網羅できない幅広い対象に投資できる画期的な新商品!

この2月、従来の投資のあり方を大きく変える新たな商品が登場した。野村グループが手がける「ETN/JDR」だ。

ETNとは、特定の株式指数や商品価格に連動するように作られた商品のこと。ETFと言葉の響きは似ているが、金融機関がその信用力の元、指標に連動するように発行する債券(Notes)である点が異なる。現物資産を保有して指数への連動を目指すETF(Fund)と異なり、裏づけ資産を必要としない。従来、ETFでは商品の組成が難しかったレバレッジ型の外国株式指数やVIX指数(*)、商品指数などにも投資することが可能だ。

ETN/JDRの最新情報はHPでゲット!



<http://nextnotes.com/>
各銘柄の概要のほか、対象指標の過去の騰落率などもチェックできる!

また、市場にはJDR形式(下参照)で上場されるため、取引方法、手数料、税制などは国内株式と同様。日本市場で日本株と同じ感覚で取引できる。すでに欧米ではETFに次ぐ上場商品として取引されているETN。今回、日本で本格的に展開する背景について、野村證券の清水久未さんは次のように語る。

「2007年以降、野村グループでは『NEXT FUNDS』というブランド名で、ETFの販売、市場活性化に力点を置いてきました。しかし、08年以降のリーマン・ショック、欧州危機などによる相場低迷、さらに昨年末からの相場転換などを経て、ETFで網羅できる投資対象だけでは投資ニーズの多様化や相場環境の変化に十分にこたえられないのではないか。そう考

●ETN/JDRの一般的な投資リスク

ETN/JDRは、対象となるインデックス、金利水準、為替の変動、発行会社又は保証者の倒産や財務状況等の悪化、その他の市場要因等の影響等により当ETN/JDRの価格が下落し、それにより損失が生じることがあります。また個別のETN/JDRに応じて、対象となるインデックスは、株価指数、商品指数、その他の指数の変動により変動します。

●手数料について

ETN/JDRにかかる費用(ETN/JDRに投資する場合、以下の費用をご負担いただきます)

〈売買手数料(売買の際にご負担いただきます)〉

ETN/JDRの売買取引には、約定代金に対し最大1.365%(税込み)(20万円以下の場合は2,730円(税込み))の売買手数料をいただきます。ETN/JDRを相対取引(募集等を含む)によりご購入いただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。ただし、相対取引による売買においても、お客様との合意に基づき、別途手数料をいただくことがあります。

〈管理費用(保有期間に応じてかかります)〉

ETN/JDRを保有した場合、信託財産である外国指標連動証券の償還価額(費用控除前)から管理費用が日次で差し引かれるため、その保有期間に応じた管理費用をご負担いただくことになります。この費用は外国指標連動証券の償還価額(費用

控除前)から計算上、差し引かれるものであり、ETN/JDRに対して別途課される費用ではありません。(銘柄毎に管理費用の利率が異なりますので、その上限額を表示することができません。)

●その他のご注意事項について

本資料に掲載されている事項は、NEXT NOTESシリーズのETN/JDRに関する情報の提供を目的としたものであり、ETN/JDRを含む有価証券投資の勧誘を目的としたものではありません。最終的な投資決定および銘柄の選択は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、野村証券株式会社は、当該情報の正確性および完全性を保証または約束するものでなく、今後、予告なしに当該内容を変更または廃止する場合があります。なお、当該情報の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。本資料に掲載されている数値・グラフ等は過去の実績・状況であり、将来の市場環境・運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、最終的な投資成果を示すものではありません。



ETN/JDR
って
なに?

特定の指数に連動する債券で、 日本株と同じように取引できる

ETNとは、Exchange Traded Notesの略称で、ETFと同様に価格が株価指数や商品価格に連動する商品。ただし、金融機関がその信用力を元に価格が指標に連動することを保証する債券(Notes)であるため、ETFのように裏づけとなる資産を必要としない。そのため幅広い対象への投資が可能だ。市場にはJDR(信託受益証券)形式で上場されるため、取引方法、手数料、税制などは国内株式と同様の扱いとなる。

野村證券

野村証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会